

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	進化学を利用した蛍光プローブの開発研究
研究代表者	中井 淳一（埼玉大学・大学院理工学研究科・教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>本研究は、応募者がこれまでに開発してきた G-CaMP のカルシウム結合部位をペプチドアダプターに置換させた融合 cDNA を用い、様々な分子に対応した蛍光プローブを作出しようとするもので、極めて独創的な研究である。開発されるプローブが広く研究者に普及されれば、様々な分野での研究の発展に寄与することが可能で、波及効果も大きいと考えられる。</p> <p>一部に他の研究費との重複を懸念する意見もあったが、研究内容全体としては先駆的な研究であり、基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。</p> <p>なお、応募者の研究目的はプローブの開発に主眼が置かれ、開発されたプローブを用いた細胞や脳機能の解明など具体的な研究ビジョンがやや希薄であった点に懸念が残る。</p>